

平成29年度 横浜市市民活動支援センター自主事業部門

(補助事業：平成27年度から平成29年度の3か年事業)

事業名：「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及事業」

平成29年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

実施団体：横浜コミュニティカフェネットワーク

事業報告書

事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
テーマ	中間支援組織の機能の充実
事業運営	<p>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p> <p>●横浜市市民活動支援センター(市民セクターよこはま) ①コミュニティカフェフォーラム開催にあたっての広報PRを行っていただいた。 ②各区区民活動支援センター職員向けのネットワーク会議で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について事業説明を行った。</p>
	<p>予算(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。) 費用は適正に執行できた。 年度当初から事業進捗を定期的に確認し、計画と得られた成果に基づいて取組みを進めたことで、効果的な経費執行ができた。専従の事務局員を配置しない事でコスト軽減を図りつつ、役割を分担しながら団体スタッフ間の連携も深めることができた。また、3ヶ年の事業成果を広く共有するための啓発冊子(100部)、事業報告書(200部)ともに冊子印刷以外に、WEB掲載の手法をとることで費用を抑えつつ、広域に発信することができた。</p>
	<p>事業内容(事業内容は市民公益活動のニーズを捉えたものか。) (具体的な事業内容)</p> <p>1. 地域フォーラム開催(5か所、のべ244名参加) 2か年継続してきた伴走会議の成果として、各地域ごとの地域性や課題、テーマに対応する地域フォーラムを開催した。開催にあたっては、5団体が合同で方向性を検討する合同会議を開催し、視野を広げ、相互助言を行うことで、中間支援力の底上げをした。また、合同会議では、コミュニティカフェで行うコーディネート業務に関する実践報告も行い、共通の学びとした。</p> <p>2. 公開フォーラム開催(1回、93名参加) 3か年の取り組みを広く報告し、カフェ型中間支援機能を含むコミュニティカフェが果たしている役割の意義や、成果の可視化が必要であることを改めて確認した。</p> <p>3. 報告書と啓発冊子の編集発行(報告書200部、啓発冊子100部、アンケート実施) 3か年の取り組みをまとめ発信するための冊子を2種類制作した。制作に際し、市内のカフェ60団体に対するアンケート調査を行い、中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識状況も含めて量的調査も行った。</p>
事業計画	

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなればなりません。

事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）**1. 地域フォーラム開催（5か所、7月～1月、のべ244人参加）**

- ◆大倉山おへそ
 - ・実施日時:2017年7月9日19:00～21:00
 - ・場所:大倉山おへそ ・参加者数:21名
 - ・実施日時 2017年12月2日18:30～20:30
 - ・場所 大倉山おへそ ・参加人数 17名(主催者含む)
- ◆シェアリーカフェ
 - ・実施日時 2017年12月8日(金)18:30～20:30(終了後交流会)
 - ・場所 シェアリーカフェ ・参加人数 30名
- ◆ハートフルポート
 - ・住み開きカフェセミナー 2017年11月6日(参加者24名)
 - ・住み開き実践者の本音トーク 2017年12月1日(参加者31名)
 - ・誰でもコンサート 2017年11月29日(参加者22名)@ハートフル・ポート
 - 2018年1月20日(参加者40名)@ミュージックサロンおんぷ
 - ・「この希望の街で」レコーディング
2018年2月12日(参加者16名)@ハートフル・ポート
- ◆反町駅前ふれあいサロン
 - ・実施日時:2017年12月1日(金)13:30～16:30(懇親会17:00～20:00)
 - ・場所:反町駅前ふれあいサロン、(しえあひるずヨコハマ)
 - ・参加者数:30名
- ◆コミュニティサロンおさん
 - ・実施日時:2017年11月26日
 - ・開催場所:コミュニティサロンおさん
 - ・参加人数:13名(主催者含む)
- ◆伴走合同会議 7/5(火)フォーラム横浜
各伴走会議の参加団体による情報交換やノウハウ共有の機会を設けた。また各地域で開催する地域フォーラムのテーマ等について意見交換を行った。

2. 公開フォーラム開催（1月19日(金)午後 BankARTにて、93名参加）

- 最終年度の総括となるフォーラムでは、基調講演に、カフェ訪問で訪ねた行政事業の地域交流拠点「芝の家」の企画運営に関わっている坂倉杏介氏を招いて開催した。
- テーマ:コミュニティカフェがその価値を発揮するために～カフェ型中間支援機能の可能性
 - 日時:2018年1月19日(金)13時半～16時半
 - 場所:BankART kawamata Hall(横浜市中区)
 - 参加者:93人

3. 報告書と啓発冊子の編集発行

- ◆報告書と啓発冊子の編集発行
 - ・報告書 A4判48ページ 200部発行
 - ・啓発冊子 A4判 100部発行
- ◆横浜市コミュニティカフェ中間支援機能についてのアンケート
62団体対象(回答数46団体、回答率74%)

期待される効果（市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。）

- 地域フォーラム開催
1年目、2年目の伴走支援を経て、5つの地域フォーラムが開催できた。その過程で、「他の主体に目が向き対話しよう」という機運が内部にうまれ、地域資源の可視化に加えて、今後地域がこうありたいという共通理解・素地ができた。カフェ型中間支援機能を自覚し、カフェ同士で対話する中で力量が形成されることが分かった。
- 公開フォーラム
横浜コミュニティカフェネットワークのカフェの事例や芝の家の事例をもとに、多様性とゆるさをベースとしたボトムアップ型の場づくりが中間支援機能を自然発生させていることを共有した。また、講師の東京都市大学坂倉杏介氏より「公共を担う説明責任を果たす努力」や「参加型の評価の必要性」について話があり、コミュニティカフェが果たしている役割の意義に加え、成果の可視化が必要であることを改めて確認した。
- 冊子・報告書の作成（アンケート実施）
3か年の議論や取組をまとめるにあたり、市内のコミュニティカフェに中間支援機能についてのアンケート調査を実施し、間口の広さや敷居の低さがうむつながりが市民意識を育てていることがわかった。ボランティア参加や実行委員等の継続ボランティア等、利用者が高い比率で企画運営に関わっている現状も把握できた。また、中間支援機能が必要と答えるカフェが98%と必要性についての認識も確認できた。取組を冊子にまとめたことで、市内各区役所や区民活動センター、コミュニティカフェに対して成果を共有できた。報告書のPDFはWEB掲載して、広く関心層に発信することができた。

自己評価	<p>○アンケートを通した横浜市内のコミュニティカフェの現状把握ができたことは大きい。多くのカフェが飲食提供や物販のみならず、中間支援を意識し役割を果たしていくことへの関心及び意欲を確認もできた。</p> <p>○3か年を通して、当初計画した活動だけでなく、広がりのある事業となった。これは、市内のコミュニティカフェが知恵を出し合いながら取り組んできたことと、市民局との協働事業として取り組めたことによるものと考ええる。</p>
------	--

(第10号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄附等)	159,930	会費・寄付金等より充当
	8	利息
参加費・資料代等	146,000	公開フォーラム参加費2,000円×73名
合計	2,305,938	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
地域フォーラム	1,001,220	開催費用 100,000円×5団体
		人件費 460,000円
		交通費 41,220円
公開フォーラム	323,650	講師・報告者謝金 85,000円
		会場費 52,500円
		広報・印刷費 28,650円
		人件費 157,500円
報告書・啓発冊子発行	894,090	原稿執筆謝金 290,000円
		人件費・会議交通費 361,000円
		編集・印刷費 216,540円
		送料 26,550円
事務経費	86,978	打合せ会場費・事務用品・印刷費・送料
合計	2,305,938	

*補助金交付の対象である事業の収支決算を記入してください。

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。